

第54回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和5年12月4日(月) 18:00~19:16

2 形態 web会議

3 出席者 56名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○「第4次岡山県がん対策推進計画(素案)」について報告があった。前回会議でいただいたご意見を盛り込んだ素案について、11/21~12/20の日程で県民の皆様からのパブリックコメントを受付けている。

・基本理念「県民が、がんを知り、がんと向き合い、がんになっても自分らしく生き抜くことのできる岡山県の構築」に基づき、全体目標を以下の3点とした。

1 がん予防・がん検診の充実等による罹患率・死亡率の減少

2 切れ目のない医療提供体制の整備、全てのがん患者とその家族等の苦痛の軽減並びに療養生活の質(QOL)の維持向上

3 がんになっても安心して生活し、がんとともに自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現

・分野別施策と個別目標は10の分野で取り組んでいく。

・「(3)がんの診断・治療に関する医療水準の向上」において、①がん診療連携拠点病院等の充実・強化に、希少がん、難治性がん及びがんゲノム医療について追記した。

・②手術療法・放射線療法・薬物療法及びチーム医療の推進には、口腔ケアの内容を追加した。

・「(4)患者・家族への支援」の中に③がん患者のQOL向上の項目を新たに設けて、アピアランスケア等の相談対応・情報提供体制の構築を目指すこととした。

・「(6)小児、AYA世代、高齢者のがん対策」において新たに③妊孕性温存療法の項目を設け、患者本人が妊孕性温存について選択できるような情報提供体制を構築するとともに妊娠・出産に至らなかった患者の相談体制の構築も検討していくこととした。

・出席委員より、「(9)デジタル化の推進」において、オンラインでの相談支援や患者サロンが開催できる体制の整備とあるが具体的にどのような支援がしていただけるのかと質問があった。

→岡山県：計画上ではICTを活用して相談支援体制のさらなる強化を進めていく方向である。具体的な事業としては予算要求に向けて調整中で、例えばZoomを利用した相談支援体制の構築等を考えているが、情報が発表され次第提供させていただく。

○岡山県から、川崎医科大学総合医療センターのがん診療連携拠点病院への推薦について報告があった。県のがん診療連携推進病院に指定されているが、この度国指定のがん診療連携拠点病院への移行を希望しており申請書の提出があった。内容を審査した結果、要件を満たしていたため国へ推薦することとなった。今後の流れとして、年明けの国の検討会で審議され、承認されれば来年4月1日から指定となるのでご承知おきいただきたい。

(2) 事務局・岡山大学病院

○令和5年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、今後も情報提供いただきたいと依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計(R5年度)について報告があった。

・前回報告の8月以降閲覧数が増加傾向にある。閲覧数については、前回同様「セミナー・講習会(医療関係)」が最も多く、「がん相談支援センター」「地域連携パス」と続く。訪問者は9割以上が初回、地域別では約8割が岡山県内となっている。

(3) 作業部会 等

① 地域連携部会

- 令和5年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績（R5.7～R5.10集計分）について報告があった。
 - ・昨年度改訂した「大腸がん」パスを含めて各施設でパスを使用していただいております、前年度とほぼ同数の使用実績となっている。パス使用実績合計では例年同様、倉敷中央病院が最多であった。
 - ・今年度は「胃がん」パスを改訂中である。今後もパスの利用促進をお願いしたい。

② がん相談支援部会

- 9月4日にweb開催された第52回がん相談支援実務者会議について報告があった。
 - ・9月がん征圧月間に各施設のがん相談支援センターでパネル展示を実施した。同時期に県内図書館との連携展示も10施設で行った。
 - ・がん相談支援センターの周知について、県から各市町村の広報誌に掲載依頼を行っていただいた。また、岡山県のTV番組「晴れの国生き活きテレビ」とRSKラジオ「県民のみなさんへ」で放送していただいた。
 - ・がん相談員研修は、第1回を7月13日に、第2回を10月21日に開催し、第3回は2024年2月17日に予定している。
 - ・岡山県より、8月に行った関東視察（アピアランスケアについてヒアリング）について報告があり、情報共有した。
 - ・今年度は岡山県がんサポートガイドの改訂を進めており、現在原稿の修正等最終段階に入っている。
 - ・がんカフェについて、第2回は11月25日にハイブリッドで開催し、第3回は2024年2月8日にハイブリッド開催を予定している。
 - ・「がん相談支援センターの体制について」と「がん情報の管理・更新について」グループワークを行った。
 - ・岡山県がん診療連携拠点病院 第17回公開講座を2024年1月13日に開催する。「たましいのケア～人生の最期に寄り添って～」を演題に、講師は元淀川キリスト教病院チャプレン 藤井理恵氏に依頼している。開催方法は会場開催/三木記念ホールとWEBライブ配信を予定している。

- 第21回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会（11月24日）について報告があった。国指定のがん診療連携拠点病院（456施設）を対象に9月27日～10月17日に実施された「新整備指針発出後1年経過しての変化と課題」のアンケート結果が共有された。
 - ・新整備指針発出後取組みが変化したのは約7割で、患者・家族に向けて直接案内する機会を増やしたり、掲示物や配布物の作成・見直しを行ったりした施設が多かった。病院スタッフに向けては、勉強会やe-learning、広報誌を活用した施設が多かった。
 - ・病院長からのバックアップが得られていると回答した施設は約7割で、残り3割は得られていないと回答した。国がんとしては病院長のバックアップは必須と考えているため100%を目指したい。
- 岡山県では、PDCA総合評価を行う際に病院長、又はそれに準ずる方の同席をお願いしているため、他県よりはバックアップが得られているのではないかと考えている。
 - ・相談員から見て、取り組んでいると回答した割合が低いのは「妊孕性温存」「がんゲノム医療」であった。
 - ・情報提供・相談支援部会では全国統一のPDCAを作成した。2～3年に1回回答が求められるようである（必須）。今後は、すでに各県で回しているPDCAと2本建てで進めていく方向である。

③ 緩和ケア部会

- 9月11日にweb開催された第31回緩和ケア実務者会議、及び令和5年度緩和ケア研修会の開催予定について報告があった。
 - ・令和4年度末までの岡山県の緩和ケア研修会修了者の累計は3,200名であった。
 - ・第4次岡山県がん対策推進計画では、2029年度末の緩和ケア研修会修了者の数値目標は4,500名となっていた。最近では年間約200名が受講しているためなんとか達成できそうである。
 - ・令和5年度緩和ケア研修会は順調に開催できており、コロナ明けで若干受講人数も増加しているようである。

④ がん看護部会

- 7月28日にweb開催された第65回がん看護部会、及び9月22日にweb開催された第66回がん看護部会について報告があった。
- ・今年度は3つのグループに分かれて活動している。
- ・研修グループからは、「がんと生殖医療～がん治療に関わる医療スタッフとして知っておきたいこと～」をテーマに10月29日に開催したがん看護レベルアップセミナーについて報告があった。第1部は県下全域から70名の参加があり、約6割が拠点病院以外の施設勤務者であった。第2部は協議会部会メンバーが参加し、自施設の取組み等についてグループワークで発表し合って連携していくことの大切さを確認した。
- ・教育グループは岡山県共通スライドの見直しを行っており、現在3領域についてはほぼ完成しており、今後6領域を順次見直していく予定である。
- ・質評価グループは、「岡山県のがん看護の現状と課題の把握」を目的として県内の拠点病院以外の医療機関や訪問看護ステーション等に、がん看護に対する課題や研修ニーズについてアンケート調査を実施することを計画している。現在アンケート内容について精査中である。

⑤ 研修教育部会

- 10月2日にweb開催された第25回研修教育部会について報告があった。その後日時等が決定し、現在広報用ポスターを作成中である。
- ・開催時期：2024年2月7日 水曜日
- ・形態：リモートで開催（zoom利用）
- ・時間：19:00～20:00（1時間程度）
- ・テーマ：「拠点病院におけるICI合併症対策―地域連携の観点から―」
- ・講師：岡山県がん診療連携協議会の参加施設の医師3名
（倉敷中央病院 仁科先生、金田病院 海野先生、岡山大学病院 榎本先生）
- ・対象：岡山県内でがん治療を行う医師を中心に、看護師・薬剤師等の医療従事者・介護従事者
- ・3名の講師に講演していただき、その後ディスカッションを行う。

⑥ がん登録部会

- 11月6日にweb開催された第19回がん登録部会について報告があった。
- ・がん登録データの活用について、各施設からがん登録データの活用案を募って部会で検討している。
- ・生存率を公表してはどうかという意見について、追加の作業が発生して対応が難しいという施設があったため、現時点では参加している13病院が足並みをそろえることが難しいのではないかとこの意見が上がった。
- ・就労や妊孕性温存のように患者が知りたい情報を「岡山県院内がん登録報告書」に掲載してはどうかという意見について、がん相談支援センターのURLを施設別集計のページに載せることならすぐに対応できるかと思われるので進めていくこととした。
- ・がん登録データを活用して、がん情報が県民に伝わりやすく検索しやすい形にホームページを充実させてはどうかという意見があった。岡山県がん診療連携協議会ホームページ、又は岡山県がんサポート情報のホームページを他県の（見やすい）ホームページを参考にしながら近づけていけると考えている。
- ・岡山県より、全国がん登録データベースがシステムの不具合によりデータ提供の遅延が発生しており、2020年のデータ提供については来年3月頃になると報告を受けている。

⑦ がん薬剤師部会

- 2024年2月17日にwebにて開催予定の症例検討会について広報があった。今までは座学中心であったが、今回初めて病薬連携を意識した内容で保険薬局薬剤師と病院薬剤師それぞれに症例を提供していただきグループディスカッションを行う予定である。現在コアメンバーで症例のブラッシュアップを行っている。

⑧ 歯科部会

- 12月10日に岡山大学主催で開催予定の「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム 第15回歯科・口腔外科 Focused Seminar」について広報があった。
- ・講演会後に対面で第6回歯科部会を開催予定である。

- ・6月4日に倉敷歯科医師会で、11月12日に玉島歯科医師会で口腔がん検診を行った。
- ・歯科部会のメンバーを大幅に増やす計画で、岡山県病院歯科医会に参加している33病院の歯科医師に部会に入っただきさらに医科歯科連携を強化していきたい。
- ・岡山市のがん対策のホームページに「口腔ケアとがん治療について」という項目を作っただきいた。県下の口腔ケアを必要とする患者に有用な情報提供ができていないのではないかと考えている。

⑨ がんゲノム医療部会

- がんゲノム医療部会活動実績について報告があった。我が国ではがんゲノム医療（がん遺伝子パネル検査）が2019年6月から開始され、誰もががんゲノム医療を受ける機会があることを念頭に、地域医療と考えて人材育成等を進めてきた。
- ・毎月岡山臨床遺伝カンファレンスを開催している。第6回は12月20日にテーマ「先天異常の診かた考え方 Clinical dysmorphology としてのアプローチ」で、第7回は2024年1月19日にテーマ「がん種横断的な対応を目指して—MSI 検査を用いた Lynch 症候群診療—」で開催する。
- ・令和5年度厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業が採択された。「ゲノム情報に応じたがん予防にかかる指針の策定と遺伝性腫瘍に関する医療・社会体制の整備および国民の理解と参画に関する研究 R5～R7 年度）。がんゲノム医療の定義は薬を見つけるということだけでなく、治療の最適化、予後予測、発症予防を行うことも含まれるため、未発症者も対象となる。未発症者も含めた予後予測については、がん窓口業務が重要となってくるため主治医だけでなく全医療者への人材育成、及び地域住民への啓発も必要となってくる。他部会にもご協力をお願いしたい。
- ・がんプロ・厚労科研との共催で2024年3月9日に市民公開講座を予定している。小学生と保護者を対象に遺伝とがんに関する人形劇をイオン岡山で開催する。
- ・出席委員から、がんパネルをどの段階で測ればよいかと質問があった。標準治療が出来なくなっただきからとなっているが、もう少し早い段階の方が良いのではないかという意見もあるし、そのような動きがあるとも聞いた。実際のところ、薬剤を使う（一次治療を行う）前に測ることは可能となっただきくるのか。
- ご指摘いただいた点は、各種学会からがん遺伝子パネル検査をもう少し前（フロントライン）からできないかと要望書が出ている。まだ回答は出でならず、年明けて今回の診療報酬改定時にどうなるかがカギとなる。また現在では標準治療終了後か標準治療終了が見込まれる段階とされているが、見込まれるという部分は主治医の範疇が大きいのでその中で早めにやっただきただけたらと思う。

⑩ がん・生殖医療部会

- 10月10日にweb開催された第6回がん・生殖医療部会について報告があった。
- ・昨年度は、妊孕性温存について“誰も取り残されないように”を目標に県内共通のフローを作成した。自施設ですべて完了できる施設もあるが、そうではない施設から希望者を他施設に紹介する際の流れ、またうまくいかなかった時の相談先等、県の不妊専門相談センターを利用することも含めて確認した。各施設の状況を踏まえて今年1年かけて標準化していく。
- ・妊孕性温存についての情報が届かない人がないように、がん患者に渡す資料セットの中に県で作成した妊孕性温存のパンフレットを入れたり、化学療法同意書に盛り込んで必ず妊孕性温存について尋ねる運用としたりするなど各施設が工夫して対応している。
- ・県から医療スタッフ向け研修会開催の依頼を承っており、各施設で講演している。妊孕性温存についてまだ知らない方もいるため、さらなる周知を目指す。
- ・啓発について、毎年小児がんフォーラムを開催しているが、今年度は2024年2月23日にAYA世代も加えた形のフォーラムをオンラインで開催する。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院
報告事項なし

(5) その他

- 岡山県歯科医師会：県内の病院歯科との連携において、拠点病院での口腔ケアを終えて地区に下ろして行く場合にかかりつけ歯科医をお持ちの方もいると思うので、その点もふまえて今後の交通整理を考えていく必要があるかと思った。

○岡山産業保健総合支援センター：岡山県地域両立支援推進チーム(岡山労働局)主催で、2024年2月5日におかやま西川原プラザにて「治療と仕事の両立支援セミナー」を開催する。がん相談支援センターの周知を目的にパネル展示等を行う。

○出席委員：第4期がん対策推進基本計画では「患者・市民参画の推進」が上げられている。7月に開催された国のがん対策推進協議会において、患者委員から、患者の立場から見ると開催頻度・時間が少ないし会議は形式的なので、闘病環境など患者・家族がかかえる問題等をもう少し掘り下げてほしいといった意見が上がった。また、参加委員は年齢が高い方が多いので小児・AYA世代の声も聞いてくれるのかという不安や、企業の女性役員を3割にするという声がある中で協議会においても患者委員等の女性の数値目標を考えても良いのではないかという意見もあった。尚、岡山県では患者・家族会からもご参加いただいております、どのような点を改善すればよいかご意見があればぜひ伺いたい。
→患者・家族会：特に改善箇所は思いつかないが、今おっしゃったような内容の話は耳にしている。
→出席委員：患者会からはなかなか参加しにくいし、議論が専門的な方向に行くという意見は聞いている。県の協議会としても患者・市民参画を進めていきたいと考えているので、報告事項やご意見等があればぜひ事務局までお寄せいただきたい。

○岡山県医師会：第4次計画について岡山県の今後のがん対策について様々検討しているところである。3月までには作成するので、県医師会としてもサポートしていきたいし参加中の先生方にはお知恵を拝借したい。

6 協議事項

特になし

7 その他

特になし

8 次回開催日

次回は、令和6年4月開催予定。

開催日が近くなったら日程調整を行う。

(コロナ収束状況にもよるが、基本的にはweb開催とする)